

笑顔と感動の涙に包まれた 海上自衛隊横須賀音楽隊演奏会



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）は、2月8日（土）長岡市自衛隊協力会（会長 丸山智氏）が主催する「中越大震災15周年記念行事 海上自衛隊横須賀音楽隊演奏会」及び2月9日（日）田上町自衛隊家族会（会長 藤田直一氏）が主催する「海上自衛隊横須賀音楽隊コンサート」を支援し、自衛隊の魅力をPRしました。

会場となった長岡市立劇場及び田上町交流会館には、2日間で約1800名が来場し両会場とも満員となりました。

演奏会はいずれも2部構成で行われ、開演前には気軽に聞いてもらいたいとの意味を持つ「横須賀音楽隊ディキシードジャズバンド」によるウェルカムコンサートが行われました。隊員は会場の中を歩きながら演奏し、来場者と笑顔でハイタッチするなど大きな盛り上がりと熱気の中、1部が開始されました。



1部ではクラシック等が演奏され、特にベートーベンの「月光」では角田1海士によるピアノソロが披露され、会場に響きわたる美しいピアノの旋律が来場者を魅了し、大きな拍手の中1部は終了しました。



2部は刑事ドラマ「相棒」のメインテーマ、「嵐メドレー」「パプリカ」などの聞き覚えある曲で構成され、来場者も曲に合わせて手拍子を取りながら演奏を楽しんでいました。また「パプリカ」では、三宅3海曹の「みんなも一緒に！」の掛け声で音楽隊の振付けに合わせ、来場者もリズムに乗りながら手を振るなど会場が一体となり、大きく盛り上がっていました。



そしてアンコールでは、中越地震復興記念ソングである「ジュピター」を三宅3海曹が熱唱し、その歌声に涙する来場者もいるほど会場は感動的な空気に包まれていました。演奏が終了しても、音楽隊が退場しても、会場から拍手が鳴り止みませんでした。

来場者からは「パプリカなど楽しそうに演奏する隊員を見て、私達も自然と笑顔になりました」「ジュピターの歌声が震災時の様々な思いと重なり、思わず涙が溢れ出てきました」などの声が聞かれました。

新潟地本は会場入口付近に広報ブースを設置して自衛隊音楽祭りのDVDを放映し、パンフレット等を配布しました。長岡市立劇場では演奏会の休憩時間を活用し、長岡出張所長が自衛隊の魅力、任務等を説明し、自衛隊を積極的にPRしました。



新潟地本は、これからも市民に笑顔と感動が届くような演奏会を計画し、音楽を通じて自衛隊の魅力を発信していきます。